

歴史資料グループだより

第4号

令和元年度の主な事業

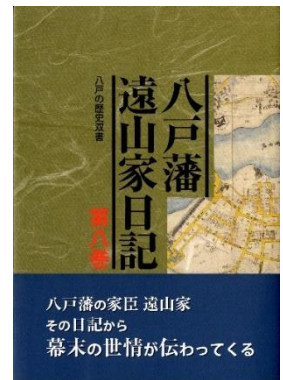
八戸の歴史双書

『八戸藩遠山家日記』第8巻 刊行！！

八戸藩の家臣遠山家の当主が、寛政4年（1792）から大正8年（1919）まで代々書き継いだ日記です。127年もの間書き継がれた日記は、全国的にも珍しく平成28年に県重宝に指定されています。

第8巻は、安政6年（1859）から慶応元年（1865）の日記です。幕末で色々な騒動が起こっていた時期に、9代当主庄七しょうしちは江戸勤番を仰せつかり、江戸に向かいます。

庄七が見た江戸の騒動とは！？開国で異国人が来ることに、人々は悲観的だったのか？楽観的だったのか？本書を読めば、答えがわかります。



八戸市市制施行90周年記念企画

「図書館資料でみる八戸市のあゆみ」開催



会期：令和元年12月1日（日）～8日（日）

令和元年度は、八戸市が昭和4年（1929）に誕生してから90年目となる節目の年でした。図書館ではこれを記念して、所蔵する資料から八戸市のあゆみを振り返りました。12月1日には、「八戸市制の歩みー市政と地域課題の変遷ー」と題してノースアジア大学准教授渡部高明氏に講演をいただきました。

八戸90周年クイズ

昭和4年（1929）に八戸市が誕生した際、八戸町立図書館は市立図書館となって、旧八戸城物見櫓から八戸尋常小学校にある建物に移りました。さて、その建物は何でしょう。

- A. 体育館 B. 教室棟 C. 講堂 D. 倉庫

（答えは裏面にあります）

クイズの答え C. 講堂

八戸尋常小学校旧講堂を八戸市立図書館として使用しました。これは現在、明治記念館として楡引八幡宮の境内に残されています。

市史講座開催

市史編さん事業の成果を紹介し、郷土の歴史に対する理解や関心を深めてもらえるよう、毎年市史講座を行っています。今年度は『新編八戸市史』通史編Ⅲ近現代の執筆者・研究者等を講師に迎え、明治時代から現代までの様々なテーマに関する講座を7回開催しました。

1	5月25日(土)	八戸が生んだモダンボーイ北村小松	たきじり よしひで 滝尻 善英 (青森県文化財保護協会副会長)
2	6月22日(土)	二宮金次郎像と学校 -南部地方を事例に、報徳思想を問う-	こいずみ あつし 小泉 敦 (三戸町立杉沢小中学校校長)
3	7月6日(土)	昭和の戦争と八戸	ほんだ としお 本田 敏雄 (八戸工業高等専門学校名誉教授)
4	8月31日(土)	新しい輸送機関と地域産業 -明治大正期を中心に-	さなみ あきこ 差波 亜紀子 (法政大学非常勤講師)
5	9月21日(土)	八戸近現代に登場する人と思想	わたべ たかあき 渡部 高明 (ノースアジア大学准教授)
6	10月5日(土)	神田重雄と八戸市制施行	みやもと としゆき 宮本 利行 (青森県立八戸北高等学校教頭)
7	11月23日(土)	戦後八戸経済史概説	たなか あきら 田中 哲 (八戸学院大学教授)

最終集 『市史収集文書目録』第17集 完成

『新編八戸市史』を刊行するために、市史編纂室で調査・収集した資料は、目録を作成し整理してきました。これらの資料をだれでも利用できるように、毎年1集ずつ収集文書目録を発行し、市史編纂室終了後は歴史資料グループに引き継がれてきましたが、今回で最終集となります。

収録資料の一つを紹介します。新羅神社(長者山)文書は、市内長者にある新羅神社に関する資料で、なかには平成28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録された八戸三社大祭の歴史をみることのできる行列帳もあります。この他、収集した多様な資料が掲載されています。

※歴史資料グループで収集した資料は、『八戸市立図書館収集文書目録』として今後も発行を続けていきます。



その他、古文書に親しんでいただくため古文書解読講習会(講師:斎藤潔氏)を7回開催、好評で完売した『新編八戸市史』通史編Ⅰ原始・古代・中世の増刷を行いました。

○大切なお知らせ○

令和2年4月1日より、古文書の閲覧方法が変わり、事前申請が必要になります。
詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

発行・編集

八戸市立図書館 歴史資料グループ

〒031-0022 八戸市大字糠塚字下道2-1

TEL・FAX 0178-73-3234

E-mail shishi@city.hachinohe.aomori.jp